



須賀川で
世界各国の映画関係者が
集まる映画祭を

記録映画カメラマン・監督 金山富男

1921年 須賀川市(旧須賀川町)生まれ
1966年 「伝統工芸一わざと人」日本映画技術賞受賞
1974年 「張子の里一デコ屋敷の人々」日本映画技術賞受賞
1977年 「伊勢型紙」芸術祭大賞受賞、教育映画祭最優秀作品賞・文部大臣賞受賞
1978年 「柿右衛門一にござで」日本映画技術賞受賞
1980年 「荒川豊蔵」教育映画祭最優秀作品賞受賞
2000年 「亜欧堂田善」日本紹介映画コンクール金賞受賞
2003年1月 死去(享年81歳)

すかがわ国際短編映画祭



最後の「世界一小さな映画祭」

文化振興課 ☎ (88) 9172

長年多くの皆さんに親しまれてきた「すががわ国際短編映画祭」が、今年で幕を閉じます。今月号では、平成元年に始まった映画祭の歴史を振り返りながら、映画祭に関わる人たちの声を紹介します。

きっかけは一人の記録映画監督の発案と行動から

第1回の映画祭は30年以上も前に遡り、広報すかがわ昭和63年1月号で企画された「新春ビッグ座談会」に参加した、本市出身の記録映画カメラマン・監督である金山^{かみやま}富男さんのアイデアで始まりました。

当時は福島空港の建設工事が行われ、国際化などの機運も高まり、市勢の更なる伸展に期待が寄せられていた時代でした。

福島空港を核とした国際化を目指す本市にふさわしい行事として、この座談会で、金山さんが「須賀川で国際短編映画祭ができたらいね。世界各国からフィルムを持った映画関係者が、福島空港に次から次へと降り立つような映

東日本大震災を乗り越えて

映画祭は例年5月に開催していましたが、平成23年は、準備も大詰めとなった時期に東日本大震災が発生しました。

震災直後は実行委員も喪失感が強く、開催を諦めかけましたが、映像文化を止めてはならないという思いから気持ちを奮い起こし、準備や会場との調整で10月に延期しての開催となりました。映画祭は大盛況で、実行委員や市民の皆さんの映画祭や文化に対する強い思いを改めて実感できた年となりました。

短編映画の魅力

短編映画には、長編映画とは違った魅力があります。1つのテーマを奥深く描く世界観やバラエティに富んだ表現方法、作者の思いを凝縮した映像や一瞬のインパクトなど、短編映画だからこそ味わうことのできる世界があります。ぜひ皆さんも、最後の機会に、この魅力を味わってみてください。

画祭を」と語ったのが、開催のきっかけとなりました。

1回目の開催に向けて、金山さん自身が多くの映画関係者に声を掛け、協力を得ることで映画祭を実現しました。

この時は文化センター小ホールで2日間にわたり14作品が上映され、大変好評でした。

1回目の開催後に、映画祭の趣旨に賛同した人たちが実行委員会を立ち上げ、以後30年以上にわたり映画祭を開催してきました。

平成12年「みんゆう県民大賞」を受賞

「みんゆう県民大賞」は、福島民友新聞社の主催で、県民の榮譽となる功績があつた個人や団体に与えられる名譽ある賞です。

当時の映画祭は、海外から映画監督などのゲストを招いて行っていたことから、平成12年のすかがわ国際短編映画祭実行委員会の受賞では、映像文化への理解と魅力発信、地方文化の活性化、更には地域の国際化に貢献したとの評価をされました。

第32回 すかがわ国際短編映画祭

10月30日^土・31日^日 午前10時開映

会場 文化センター

入場料 800円(1日) ※高校生以下は無料

観覧方法 両日とも午前9時から、文化センターロビーで入場券を販売します(前売り券の販売はありません)。

新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください

- ▶マスクの着用
- ▶入場時の検温
- ▶1席空けての鑑賞
- ▶来場者の連絡先の記入
- ▶席を離れるときの座席の消毒(除菌シートは会場で配布します)
- ▶水分補給以外の飲食の制限

オリジナルグッズをプレゼント

来場者全員に、記念品としてオリジナルクリアファイルをプレゼントします。

ほかにもオリジナルグッズが当たる抽選会も行います! 素敵なデザインとなっていますので、ご期待ください。



映画祭シンボル「時の樹」をデザイン

ゲストトーク

最後の映画祭に特別な思いを込めて、この映画祭のシンボルである「時の樹」をデザインした山村浩二さんをゲストにお招きします。

「時の樹」のデザインに至った経緯や映画祭に対する思い、また、自身の作品についてお話いただくほか、古典落語に着想した「頭山」と、絵手本「鳥獣略画式」をモチーフに、江戸時代の文学「雨月物語・夢窓の鯉魚」を骨格とした「ゆめみのえ」の2作品を上映します。どちらも人気があり、年齢を問わず観る人の心を和ませてくれる作品です。監督のトークと併せて、どうぞお楽しみください。



■ 山村浩二さん

アニメーション・絵本作家。日本アニメーション協会副会長。東京芸術大学大学院映像研究科教授。NHK「おかあさんといっしょ」のエンディング曲「べるがなる」の作詞など、多方面で活躍。

映画祭の歴史に幕



人とのつながりに「感謝」



すかがわ国際短編映画祭
実行委員会 委員

深谷育子さん

山さんの発案から始まったこの物語の最後を、ぜひ多くの人に見に来てもらいたいです。
深谷さん これまで映画祭に携わり、多くの思い出があります。その中でも強く印象に残っていることがあります。
1つ目は第20回の開催で、これまで招いたゲストたちからお祝いのメッセージをいただきました。毎回、無事開催できるのかと続けてきた中で、第20回の開催は感慨深いものがありました。
2つ目は東日本大震災の年に開催した第24回です。多くの人のご支援で開催でき、当時仮設住宅に避難していた人々を招待させていただき、感謝の言葉をいただいたときには、開催して本当に良かった

と思いました。
この映画祭に携われたことを光栄に思います。海外から招いたゲストの方たちとの交流などは、私の財産です。最後の映画祭開催にあたり、これまでの皆さんのご協力には「感謝」しかありません。この映画祭を、須賀川の歴史の一部として皆さんの記憶に留めていただければ幸いです。



これまでの映画祭の思い出があふれます

堀江さん 映画祭が始まった平成元年当時は、須賀川を盛り上げようと様々な行事が動き出した頃で、そうした動きは市民にエネルギーを与え、映画祭もその1つでした。
私は第2回から映画祭に参加しています。司会を務めさせていただいたこともあり、本当にすばらしい経験をさせてもらいました。ある年には、上映中にフィルムが切れてしまい、司会が間をつなげなければならぬハプニングなど

もありましたが、今では良い思い出です。
映画祭も開催を重ねるにつれて、世界各国の作品や国際的な映画祭で賞を受賞した作品の上映、アカデミー賞受賞監督などをゲストに招くことができるようになりました。
映画祭は今年で最後となりますが、これまで開催できたことに「感謝」の一言です。金



すかがわ国際短編映画祭
実行委員会 委員長

堀江祐介さん

すかがわ国際短編映画祭との歩み

映画祭の発案者である金山富男さんの遺志を継ぎ、これまで開催に尽力してきたのが、実行委員会の皆さんです。実行委員会の堀江さんと深谷さんにお話を伺いました。